

観光問題

Q グリーンシーズンの反省と検証

A 概ね前年並みの15万人の集客



池田 和良 議員

Q 天候に左右される夏の観光、本年も雨の影響を受けており、観光客は減少しています。そこで観光活性化のために次の点を伺います。

① 新たな観光の拠点づくりや、雨天の時の観光について、白馬・小谷地区の自然や文化、歴史などを体験出来るようなテーマ館や、様々な体験学習プランを用意する。

自分のペースで巡りながら、四季折々に変化する自然の植生、雪解け水に、じかに触れながら遊べる場所の提供をしたらいかがか。

② ウィンターシーズンに向けては、シニアやファミリーのお客さんに対する対応や、滞在期間を延ばすように村内スキー場の共通リフト券の導入が急務であると思うが。

A ① グリーンシーズンの一大イベントとしての「白馬ALPS花三昧」も3年目を迎え、地域の皆さんのご協力により無事終了しました。

愛知万博の影響を受けた観光地が多い中、JRの協力をいただき前年並みの15万人の索道利用実績がありました。

特筆すべきは、岩岳地区で「岩岳ゆり園」の開設が挙げられます。白馬の夏の観光拠点として、今後大きな期待を寄せております。

雨天対策のテーマ館というような新たな拠点を作るとなると財政的に難しいの

で、インドア体験を提供する施設、美術館、ギャラリーなどを紹介することで、対応したい。

また、自然とのふれあいといった面では、松川河川公園、サンサンパーク、大出公園、青鬼集落などを紹介します。

② 「白馬HAPPYセブンス2日券」があり、更なるリフト券の共通化については、白馬村索道業者としても検討をしています。

その他の質問

Q 間伐財の活用は、森林の整備、ひいては自然環境の保護につながる。管理出来ない人への手助けは。

A 下刈り、除伐、間伐には、国や県の補助制度が設けられているが、村も10%の補助金の上乗せを行っています。

Q 粗大ゴミを冬期間も月1回位開設できないか。

A 集積場内の除雪をしても、大型車両が多く作業スペースが取れない事と、事故防止の為に休止しています。

Q 持ち込まれたゴミのリサイクル化は、どうなっているか。

A 容器包装リサイクル協会指定の事業者により、適正に行っています。



前方名木山ゲレンデ前